

# 中部産業遺産研究会 会報 第44号

Newsletter of The Chubu Society For The Industrial Heritage

## ・第115回定例研究会・見学会の開催について

見学先：一宮市起（おこし）地区の鋸屋根工場と一宮市尾西歴史民俗資料館

概要：木曾川沿いに位置する起（おこし）地区は、江戸時代、脇街道であった美濃路の宿場町（起宿）として渡船場をかかえ、交通の要所として栄えた。綿織物などが盛んに織られ、大正期以降は毛織物生産へ転換した。大正期頃より、鋸屋根で製織工場などが建てられたと考えられ、その建設は昭和40年代頃まで続いた。現在、起地区には、渡船場跡や舟問屋など宿村時代の遺構や街道の名残を示す町屋などが散在する一方、かつての「毛織王国」を支えた大小の鋸屋根工場が数多く残る。起地区の南に位置する西五城（にしいつしろ）地区は、この辺りでは一般的な郊外の集落で、住民の多くが兼業で織物生産に従事したため、住居と小規模の工場が一体となった建物が密集している。

日付：2012年3月25日（日）午後1時

集合：名鉄一宮駅改札前

行程：名鉄一宮駅バスターミナルへ移動（徒歩1分）

1：16発 「起（郷北）行き」バスへ乗車。運賃：大人330円

1：35着 「濃尾大橋口」停留所 下車

1：40～3：00

徒歩にて起地区の鋸屋根工場等を見学（ただし無許可につき敷地外を立ち止まる程度）

旧起織物株式会社工場（大正期創業・鋸屋根）

小規模な鋸屋根工場がある街並みを歩く。

匠整理工場（大規模な鋸屋根工場）

湊屋（江戸時代の回継問屋・国登録有形文化財、渡船場の前に立地）

起渡船場跡（江戸時代の脇街道・美濃路の渡船場跡、愛知県有形文化財（史跡））

木曾川沿いを歩く。濃尾大橋（昭和31年竣工）をのぞむ。

旧大野金毛織洋館（昭和9年竣工）

旧舩善毛織工場（初期の鋸屋根工場、大正6年頃竣工）

3：00～3：40

徒歩にて西五城地区を散策

3：40～5：00

一宮市尾西歴史民俗資料館 入館無料

開催中の特別展「のこぎり屋根と毛織物」や常設展を見学

神田学芸員の展示説明

別館（大正期竣工の町屋建築）を見学

5：00予定 「起」停留所にて、「名鉄一宮駅行き」バスへ乗車。運賃：大人330円

5：21予定 「名鉄一宮駅」停留所 下車・解散

[参考] 「起」停留所発時刻 「名鉄一宮駅」停留所着時刻

5：00

5：21

5：15

5：36

5：30

5：51

5：45

6：06

## 第 114 回 公開定例研究会の報告

司会（市野清志）・記録（永田 宏）参加者：34 名  
場所：名城大学名駅サテライト会議室、開催日：2012/01/29（日）

### 定例研究会の進め方について 大橋公雄

最近の例会で、報告時間が予定をオーバーして各方面に迷惑をかける事が多いので、今後はレジメに記載された時間を厳守するよう強く要望された。

新会員紹介 なし

#### 1. 研究報告、調査報告

[114-11-01]「産業遺産の見方・調べ方 - 近代の産業遺産の見つけ方・調べ方 -」 天野博之  
資料 A3判 パンフ

豊田市の旧足助町における重要伝統的建造物群保存地区の設定に際して、「産業遺産」的なものがあったので、幾つかの事例を挙げて説明があった。

[114-11-02]「短命に終わった日本の真空管式ポータブルラジオ」 渡辺治男  
資料 A4判 8頁

真空管式ポータブルラジオは 1949 年に始まり、1956 年には全ラジオの生産量の 40%にもなったが、トランジスタラジオに追越され 1960 年末には生産量が 0 になった。その間の経緯について、メーカー別などの豊富な写真と統計グラフで説明があった。

#### 2. その他の諸報告、保存問題など

[114-21-01]「産業技術記念館の収蔵庫調査の終了報告」 天野武弘  
資料 A4判 1頁

産業技術記念館の収蔵庫調査は、大口町倉庫に収蔵されている工作機械や各種資料を、記念館関係者と中部産業遺産研究会から 7 名の会員が加わって行った。調査は平成 20(2008)年 12 月に開始し、同 23(2011)年 7 月に終了した。全部で 91 件、これを技術的、歴史的、系譜的の三つの観点から評価し、台帳、報告書を作成した。

今後、この結果を記念館、トヨタグループの上層部にアピールし、しっかりフォローしていく事が重要であろうとの意見があった。

[114-21-02]「渡辺織布工場の保存問題」 天野武弘  
資料 A4判 1頁

渡辺織布工場は、蒲郡市に所在し昭和 6(1931)年に創業、平成 22(2010)年 8 月末で操業停止した。当方は工場と機械類の一括保存を各方面に打診中だが難航している。蒲郡市としては予算的に全部の保存は難しいが、同市博物館では機械 1 台なら引き受けが可能のようである。

[114-21-03]「旧地名発電所建物解体までの経緯及び教訓と課題」  
野口英一朗、天野武弘、中住健一郎、永井唐九郎  
資料 A4判 1頁

旧地名発電所は、明治 40(1907)年建造の水力発電所の遺構で、平成 10(1998)年 9 月に現地でシンポジウム開催した。その後、地元の保存の中心人物が急逝し、建物を使用していた建築会社が平成 11(1999)年に移転したため、無人となっていた。平成 22(2010)年 4 月に解体が決定し、解体が一時延期されたが同年 12 月に地上部分が解体された。教訓として 現地との継続した関わり・ 素早い情報のキャッチと現地対応・ 行政等への早めの働きかけが必要である。

[114-21-04]「初代木曾川橋（愛知県一宮市・岐阜県笠松町）橋脚減失」 岩井章真  
資料 A4判 2頁

初代木曾川橋は、明治 43(1910)年に竣工した木鉄混合橋で、大正～昭和初期に橋脚の基礎をコンクリートや煉瓦で巻き立てられた。昭和 12(1937)年に二代目木曾川橋が建設されたため、この初代の橋は撤去されたが、橋脚の基礎部分（3か所）のみ残った。河川管理上、この残っていた橋脚部分が支障とな

るため現在除去作業中である。

[ 114-21-05 ] 「産業遺産の概念について - 産業考古学会熊本大会での発表と、議論の様子 - 」

天野武弘 資料 A4判 2頁

各会員から下記のような、多くの意見が表明された。

愛知県史の中の民俗、戦争遺跡との関連 ・博物館・資料館の「分類」

国際的な分類はあるが地域、国により多様化、・図書館の分類 NDC

今迄の考察対象が「工業」に偏っていたが、・「近代」より前のものも対象である。

今後、なお議論を要する。

3 . 研究誌、会報(研究会ニュースレター)

[ 114-31-01 ] 研究誌『産業遺産研究』第 19 号について 浅野伸一 資料 A4判 1頁

執筆予定者の紹介と5月の総会時に配布したい等協力依頼があった。

[ 114-31-02 ] 会報ニュースレター 電子メール版の原稿募集 橋本英樹

4 . シンポジウム

[ 114-41-01 ] シンポジウム「日本の技術史をみる眼」第 30 回記念 山田 貢

申し込み方法や日程などの詳細については、別紙のチラシをご覧ください。多数の会員の参加をお待ちしています。

5 . 見学会、その他の催し物

[ 114-51-01 ] 第 5 回「2011 年 パネル展」のパネル展と講演会の報告 大橋公雄

開催日：パネル展 2011/11/01(火)～11/13(日)、講演会 2011/11/06(日)

人数：パネル展来場者 1,989 名、講演会参加者 55 名

詳しい報告は、1月に発行した会報 43 号に掲載しています。

[ 114-51-02 ] 「ものづくり文化再発見！ウォーキング大会」の報告 寺沢安正

2011/11/12(土)に開催された清須コースは、晴天に恵まれてこれまでの大会で一番多い 261 名が参加しました。出発式で名古屋武将隊の見送りを受け、途中のNHK名古屋放送記念碑や瀬戸電旧堀川駅や美濃路街道沿いにある西枇杷島問屋記念館などで説明を行いました。ゴール後はキリンビアパーク名古屋工場の見学や試飲などがあり、好評のうちに終了しました。

名古屋商工会議所より研究会へ2万円の謝礼があり、1万円は西尾開催時の協力者に支払った。残額は研究会へ入金した。今後のウォーキング大会に関しては、柳田哲雄会員が主に担当します。

[ 114-51-03 ] 第 6 回「2012 年度 パネル展」 大橋公雄

1 . 開催日：2013/01/中下旬の2週間を予定

テーマ：「名古屋のまちづくりを発展させた鉄道網」(仮)

内容：武豊線、東海道線、中央線、名鉄、近鉄、名古屋市電、地下鉄、名古屋駅

場所：名古屋都市センター11F まちづくり広場・企画展示コーナー

講演会：今年度と同様にパネル展のテーマに関する発表を行います。引き続き定例研究会を公開として開催します。

2 . 勉強会 2012/02/05(日) 14:00～16:30 名古屋都市センター13F で予定します。

会員のご参加をお待ちしています。数名が参加予定である。

[ 114-51-04 ] 第 2 回「TICCIH 台湾 2012 準備委員会・勉強会の報告」 石田正治

2 回目の会合を 2011/11/27(日) 14:00 より、名古屋事務所で開催した。

[ 114-51-05 ] 第 115 回定例研究会・見学会 岩井章真

集合の場所や時間などの詳細については、1ページをご覧ください。

[ 114-51-06 ] 一宮市尾西歴史民俗資料館の特別展「のこぎり屋根と毛織物」 岩井章真

上記の見学会時に訪れます。

[ 114-51-07 ] 「全国トンネル(廃線活用)サミット」の開催について 山田 貢

日時：2012/03/31(土) 13:30 より

場所：中央線勝川駅前「ホテルプラザ勝川」

申込方法などは7ページに掲載してあります。

6. 文献紹介、資料紹介( )内は紹介者

【参考文献】

[114-61-01]「信濃の橋百選」信濃の橋刊行会・尾崎文雄会員寄贈 (事務局)

[114-61-02]「亀田光三論文集 桐生織物史と産業遺産」亀田貴雄・亀田貴雄氏寄贈 (事務局)

【参考資料】

[114-62-01]「旧豊川海軍工廠近代遺跡調査報告」豊川市教育委員会 (天野武弘)

【その他の資料】

[114-63-01]「G I H会報 No.82」岐阜産業遺産調査研究会 (事務局)

[114-63-02]「ニュースレター vol.90」名古屋都市センター (事務局)

[114-63-03]「九州産業考古学会 会報第16号」 (事務局)

[114-63-04]「G I H会報 No.83」岐阜産業遺産調査研究会 (事務局)

7. 出版広報事業

[114-71-01] インターネット <http://csih.sakura.ne.jp/>

[114-71-02] 中部産業遺産研究会の本

[114-71-03] 創立記念事業の「出版」の提案 天野武弘 資料 A4判 2頁  
2007年11月から始めた「産業遺産の見方・調べ方」は、17回25テーマ延28人の会員から報告されている。これを何らかの形でまとめて発行したい。3つの案について提案があったが、継続して検討することになった。提案された詳細については、6ページに掲載しました。ご意見をお願いします。

8. 委員会、役員会、研究分科会

[114-81-01] 幹事会・役員会

・第6回幹事会 2012/01/29(日) 12:00~12:30 名城大学名駅サテライト会議室

1、名古屋事務所と在庫書籍について。(野口事務局) 添付資料あり

2、今後の例会・見学会の会場と日程の現状について。(大橋幹事)

3、会費納入の現状について。(市野幹事)

4、日本の技術史をみる眼の現状について。(山田委員長) チラシ参照

5、産業遺産研究の現状について。(浅野幹事) 添付資料あり

6、名古屋都市センターのパネル展の現状について。(大橋幹事)

7、産業遺産ウォーキング大会の現状について。(寺沢幹事)

8、会報の現状について。(野口事務局)

9、創立記念事業について。(天野担当) 添付資料あり

10、その他。5月の総会後の記念講演は永田宏副会長に行っていた。(野口事務局)

全国トンネル(廃線活用)サミットの後援名義使用の承諾書を発送した。(野口事務局)

[114-81-02] シンポジウム「日本の技術史を見る眼」第30回記念 実行委員会

・第6回 2012/01/29(日) 10:30~12:00 名城大学名駅サテライト会議室

・第7回 2012/03/25(日) 10:00~12:00 名城大学名駅サテライトディスカッションルーム1・予定

[114-81-03] 第6回「2012年度 パネル展・名古屋のまちづくりを発展させた鉄道網」(仮) 勉強会

- 武豊線、東海道線、中央線、名鉄、近鉄、名古屋市電、地下鉄、名古屋駅 -

・第1回 2012/02/05(日) 14:00~16:30 名古屋都市センター13F

・第2回 2012/04/15(日) 14:00~16:30 名古屋都市センター13F・予定

[114-81-04] 研究誌『産業遺産研究』第19号 編集委員会

・必要に応じて電子メールや電話にて開催

[114-81-05] TICCIH 台湾 2012 準備委員会・勉強会

9. 総務・事務局関係

[114-91-01] 定例研究会の進め方について 大橋公雄

例会の最初に強い要望があった。

[114-91-02] 名古屋事務所と在庫書籍などについて 野口英一郎・藤田秀紀

田中浩太郎顧問のご好意で利用させて頂いている上前津の名古屋事務所を、本年内に整理する事に

なった。これに伴い在庫の資料や書籍の処理方法について意見を求められた。パネル展の関係するものは、整理して一旦寺沢安正会員が預かる。保存図書は事務局に移すことにする。

在庫として大量にある書籍は、一応5月の総会まではそのままとし、各自考えておくことになった。だが、意見として「ものづくり再発見」と「同英語版」は会員の責任で引き取る。『産業遺産研究』などのシリーズものは全号揃えて販売する。この件については、5ページに掲載しました。ご意見をお願いします。

#### [114-91-03] 研究会スケジュール、関連団体スケジュール

- ・一般社団法人日本機械学会東海支部第61期総会・講演会【学術講演会】 「技術と社会部門」  
2012/03/16(金) 9:15～ 名古屋工業大学
- ・第115回定例研究会・見学会 2012/03/25(日) 13:00～  
一宮市起地区の鋸屋根工場群・一宮市尾西歴史民俗資料館、1ページ参照
- ・産業考古学会総会・研究発表 2012/05/19(土) 日本大学駿河台キャンパス  
見学会 2012/05/20(日) 「町工場と海苔の大田区」
- ・第20回総会・第116回定例研究会 2012/05/27(日) 13:00～ 会場未定
- ・第117回例会 2012/07/22(日) 13:00～ 会場未定
- ・第118回例会・見学会 2012/09/23(日) 13:00～ 会場未定
- ・産業考古学会全国大会 2012/10/06(土)～07(日) 愛媛県新居浜市
- ・TICCIH台湾2012・本会議 2012/11/04(日)～08(木) 台湾
- ・TICCIH台湾2012・ポストツアー 2012/11/09(金)～11(日) 台湾
- ・第119回例会 2012/11/25(日) 13:00～ 会場未定
- ・第6回「2012年度 パネル展」 2013/01/22(火)～02/03(日)予定 名古屋都市センター
- ・第120回例会公開・パネル展講演会 2013/01/27(日) 13:00～予定 名古屋都市センター
- ・第121回例会 2013/03/24(日) 13:00～ 会場未定
- ・第21回総会・第122回例会 2013/05/26(日) 13:00～ 会場未定

#### [114-91-04] 会員異動 ( )内は入会日・退会日

- ・入会：ありません
- ・退会：ありません

### ・名古屋事務所と在庫書籍について

田中浩太郎顧問より名古屋事務所を本年中に整理したいと、石田副会長を通じて連絡があった。田中顧問のご厚意によって個人事務所を、長年にわたり当会の名古屋事務所として使用させていただき深く感謝いたします。

問題である4,000冊以上の在庫書籍について、次の意見が幹事会であった。例会にて大半を廃棄する方向で会員の了解を取る。古本屋に売る。『産業遺産研究』は全号揃えて販売するなど個別に対応する。公共の図書館や大学の図書館などで、引き受ける所があれば寄贈する。開催が予定されているパネル展やシンポジウムなどで関係するものがあればどこかに残し、その時に配布する。『英文ガイド』は、TICCIH台湾大会2012に配布可能かを連絡する。名古屋事務所以外に会員の自宅などに預かっている書籍も、書籍管理の負担を減らすため今回廃棄の対象とする。例会で報告し会員の意見を聴き進めるため、話し合いを継続して電子メールなどを用いて行う。

例会にて、廃棄に対して反対意見はなく、総会です承を得てから廃棄をする。幹事会以外での意見は、総会までは価格など現行のままとし、収入にはならないが配布や寄贈などを進める。『ものづくり再発見』と『英文ガイド』は、田中顧問によって発行されたため別扱いを考える。

書籍幹事が在庫書籍処理の基本方針を以下の様にまとめました。

基本方針 価値を知る会員・非会員になるべく高く買い取ってもらう。

価格は次回総会までは現行のままで、残ったものについて会員に廉価販売する。

廉価販売は総会後に日時を限定して名古屋事務所において行う。(2回程度想定)

廉価販売の日程や価格は今後お知らせします。

他団体への寄付、古本屋販売、廃棄処分は会員販売後とする。

会員・非会員への販売は、先に注文された方を優先とする。(該当本が枯渇する場合)

書籍処理に係わる手間暇や費用経費は最小とする。

今後は保管年限を決め、保管年限が過ぎたものは処理する。

『産業遺産研究』は全号揃ったものだけ残し、それ以外は販売する。

(近日中に欲しい本も手に入らなくなるため、書籍を確保したい方は早めに申し込みをお願いします。)

この件についてのご意見などは、担当の藤田秀紀幹事または事務局の野口英一朗までお願いします。

(連絡先は会員名簿に掲載してありますのでご覧ください)

## ・創立記念事業の「出版」の提案 天野武弘

創立記念事業として今年度の総会で承認された「出版」化の内容について、再度の検討をお願い致します。

前回の案(2012.07.24に開催した第111回定例研究会にて)

- <「出版」の内容> (1案)「中部の産業遺産(見方調べ方)」  
(2案)「新発見、中部の産業遺産(ガイドブック)」  
(3案)「新発見・中部の産業遺産(活用ガイドブック)」
- <「出版」の形態> (1案)単行本・・・出版社からの発行  
(2案)単行本・・・研究会で発行  
(3案)『産業遺産研究』記念号として発行

しかし、定例研究会では単行本出版に積極的な賛同はなく、むしろ困難との意見が示される。出版費用や出版後の在庫管理、さらに編集に困難が伴うなどの意見が出される。

今回の改案

<「出版」の趣旨> 創立記念事業として単行本の発行は断念し、当研究会のあゆみを示す何らかの記念事業は必要と思われ、以下の改案を提案します。2007年11月にスタートした「産業遺産の見方・調べ方」は、これまでに計17回、25テーマ、述べ28人の方から報告され、これまで公開されてないため、何らかの形で活かしたい。「産業遺産の見方・調べ方」に関する出版を行いたい。

費用と在庫管理、執筆、編集にできるだけ負担のかからない方法で行います。

- <「出版」の形態> 1案 講演会あるいはシンポジウムを実施し、報告集を発行
- 2案 『産業遺産研究』の記念号として発行
- 3案 『産業遺産研究』に次年度号より随時発表

記念事業の出版として考えれば、1案または2案が相応しい。最も負担のない方法は3案の『産業遺産研究』に随時発表の形であろう。

<「出版」の編集> これまで報告いただいた「産業遺産の見方・調べ方」を、一定の編集方針のもとに加筆修正をお願いするが、基本的には執筆者個人の観点で考えを述べていただく。これまでに発表のないテーマについては、新たに執筆をお願いする。

- <「出版」の組織> 「見方・調べ方編集委員会」(仮称、今後編成)を立ち上げて行う。  
1案となる場合は編集委員会を含む独立した実行委員会を立ち上げるか、  
「日本の技術史をみる眼」実行委員会の上で承認が得られればタイアップして行う。  
2案か3案となる場合は、『産業遺産研究』編集委員会の上で承認が得られれば  
タイアップして行う。

この提案についてのご意見などは、担当の天野武弘副会長または事務局の野口英一朗までお願いします。また、創立記念についてのご意見などもお寄せください。

(連絡先は会員名簿に掲載してありますのでご覧ください)

## . お知らせ

研究誌『産業遺産研究第 19 号』編集委員会より  
論文・調査報告や研究ノートなど原稿を募集しています。原稿の締め切りは 3 月末です。

### 会計幹事より年会費納入について

2011 年度の年会費の納入をお待ちしています。例会時に現金支払いも出来ませんが、担当者が欠席する  
場合もありますので、手数料が発生しますが下記の郵便振替や銀行口座をご利用ください。  
個人の年会費は 4,000 円です。

[郵便振替] 口座番号：00840-1-174258 口座名：中部産業遺産研究会  
[銀行口座] 三菱東京UFJ銀行 鳴海支店 普通預金 口座番号：1531266  
口座名：中部産業遺産研究会 会計 市野清志

また、2010 年度の未納の方も数名おられ、2 年間未納の場合は退会となります。  
問い合わせは、市野会計幹事までお願いします。

近代化遺産に命を吹き込む市民活動 全国トンネル（廃線活用）サミットの聴講者募集  
サミット：2012/03/31(土) 13:30～17:00

愛知県春日井市 ホテルプラザ勝川(春日井市松新町 1 - 5、JR 中央線「勝川」駅前)

参加団体：北海道 土幌線 ひがし大雪アーチ橋友の会

群馬県 碓氷峠 鉄道遺産群を愛する会

長野県 篠ノ井線ケヤキの道

兵庫県 湊川隧道保存友の会

愛知県 愛岐トンネル群保存再生委員会

宮崎県 高千穂あまてらす鉄道

コメンテーター：小野田 滋(鉄道総合技術研究所、工学博士)

聴 講：無料(下記の申込方法にて事前申込みのこと)

申込方法：電話・FAX・メールで参加人数・代表者名・連絡先をお知らせください。

電話：0568-87-6533(ポトス内)、FAX：0568-87-6588、メール：muramasa@mc.ccnw.ne.jp

主 催：全国近代化遺産活用連絡協議会 東海・北陸ブロック

主 管：NPO 法人愛岐トンネル群保存再生委員会

当研究会は後援団体になっています。

### シンポジウム「日本の技術史をみる眼」第 30 回記念

2012/02/26(日)に暖かな名城大学名駅サテライト多目的室で行われたシンポジウム「日本の技術史  
をみる眼」は、節目となる第 30 回で記念回として開催され 75 名の参加者があった。今回のテーマは  
「産業遺産研究の歴史と現状を考える」で、佐々木享会長の挨拶の後に、基調講演・報告・パネルデ  
ィスカッションが行われ、会場を交えて活発な意見交換が行われ、好評のうちに終了した。今回のシ  
ンポジウムの様子は、5 月 1 日発行予定の次号に掲載します。

### シンポジウム「日本の技術史をみる眼」第 30 回記念の実行委員会の開催

シンポジウム「日本の技術史をみる眼」の実行委員会を 2012/03/25(日)の 10:00～12:00 に、名城  
大学名駅サテライトディスカッションルーム 1 で行う予定です。今回行ったシンポジウムの反省と次  
回以降について話し合います。実行委員会後は、一宮市起周辺で行われる第 115 回定例研究会・見学  
会に移動します。誰でも参加できますので、お集まりください。この実行委員会に現在実行委員で  
はないが出席したい方やご意見などは、担当の山田貢シンポジウム事務局または事務局の野口英一朗ま  
でお知らせください。

(連絡先は会員名簿に掲載してありますのでご覧ください)

「2012年度 パネル展・名古屋のまちづくりを発展させた鉄道網」(仮)の勉強会について

今回のパネル展、武豊線・東海道線・中央線・名鉄・近鉄・名古屋市電・地下鉄・名古屋駅をはじめとした主要駅などについて、詳しい内容はこれからの勉強会などで、話し合い詰めていきます。パネル展の開催は来年の2013/01/22(火)～02/03(日)までで、公開の定例研究会を2013/01/27(日)に開催する予定です。勉強会は偶数月の日曜日に同じ会場で行う予定にしています。

次回の勉強会は2012/04/15(日)の14:00～16:30にかけて、名古屋都市センター13Fにて行います。参考となる文献は、新修名古屋市史5巻第四節、交通・運輸業の発展(P526～P550)、シンポジウム「日本の技術史をみる眼」第13回鉄道遺産の現状と保存問題および第18回東海地方を駆け抜けた高速電車・高性能電車、「中部の電力のあゆみ」第6回中部の電気鉄道100年があります。

勉強会の参加者で取り組んでも良いテーマを出し合い進めて行きます。関心のある方なら誰でも参加出来ますので、ご出席ください。資料がある方は15部用意してください。この勉強会に出席したい方やご意見などは、担当の大橋公雄幹事または事務局の野口英一朗までお知らせください。

(連絡先は会員名簿に掲載してありますのでご覧ください)

#### TICCIH2012 台湾の開催

開催日：本会議 2012/11/04(日)～08(木)、ポストツアー09(金)～11(日)

当研究会はTICCIHの会員であり、今回のTICCIH2012台湾に中部地区で台湾と関わりのある産業遺産を紹介するパネルを作成し展示を行うため、実行委員会を立ち上げて勉強会を始めようとしています。実行委員会はパネルの作成・展示だけではなく、会員個人の発表を手伝いも出来ればと考えています。紹介する産業遺産や個人発表としては、名古屋テレビ塔、依佐美送信所、鉄道、水道などが見込まれています。今後は、台湾大会事務局からの具体的なお知らせを待つて進めます。

#### 「ものづくり文化再発見！ウォーキング大会」の開催

来年度は春と秋に開催する予定で主催者側は進めているようです。開催されれば今まで通りに協力をする予定です。開催日やコースなど内容が発表されましたらお知らせします。

#### 会報編集委員会より

編集委員の募集および、ご意見やご希望などお願いします。

産業遺産に関する情報・短信・文献紹介などお気軽にご投稿下さい。投稿は郵送または電子メールでお送り下さい。写真には必ず撮影者と撮影日時を記載したメモを貼り付けて下さい。原稿はテキスト形式で作成していただくと編集作業がしやすいので、なるべくテキスト形式をお願いします。

原稿送付先：野口英一朗 [noguchi.@d5.dion.ne.jp](mailto:noguchi.@d5.dion.ne.jp) (アドレスにご注意下さい。@の前にドット。)

電子メールをお持ち会員で、橋本幹事から電子メールニュースが配信されていない会員は、メールにて、橋本幹事([hidekih@wine.plala.or.jp](mailto:hidekih@wine.plala.or.jp))までご連絡ください。すでに着信確認メールを出されている方は、再度送信いただく必要はありません。

---

#### 中部産業遺産研究会会報 第44号

Newsletter of The Chubu Society For The Industrial Heritage Vol.44 2012-3

発行：中部産業遺産研究会

発行人：佐々木享

発行日：2012年3月1日

編集委員：野口英一朗・伴公太・中住健二郎・橋本英樹

事務局：〒453-0014 名古屋市中村区則武2-34-12 シェルコート則武502 野口英一朗気付  
中部産業遺産研究会のホームページは、<http://csih.sakura.ne.jp/>です。

掲載記事の無断転載を禁じます。

Copyright 2008 The Chubu Society For The Industrial Heritage, All rights reserved.